

平成30年6月21日

## 平成29年における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

## 1 概要

### (1) 全国の発生状況

平成29年の山岳遭難は

○ 発生件数	2, 583件	(前年対比+ 88件)
○ 遭難者	3, 111人	(前年対比+ 182人)
うち死者・行方不明者	354人	(前年対比+ 35人)
負傷者	1, 208人	(前年対比+ 75人)
無事救助	1, 549人	(前年対比+ 72人)

であり、発生件数、遭難者数は、統計の残る昭和36年以降最も高い数値を示した。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると増減を繰り返しているが、平成25年以降の発生件数は、2, 000件以上で推移しており、平成20年と比較すると

○ 発生件数	+ 952件	(+ 58. 3%)
○ 遭難者	+ 1, 178人	(+ 60. 9%)
○ 死者・行方不明者	+ 73人	(+ 26. 0%)

となっている。

### (2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、最も多いのが長野県292件、次いで北海道236件、山梨県161件であった。

## 2 特徴

### (1) 目的別・態様別

遭難者3, 111人について、目的別にみると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。）が71. 5%と最も多く、次いで山菜・茸採りが12. 2%を占めている。

また、態様別にみると、道迷いが40. 2%と最も多く、次いで滑落が16. 8%、転倒が15. 1%を占めている。

### (2) 年齢層別

遭難者のうち40歳以上が2, 419人と77. 8%、このうち、60歳以上が1, 588人と51. 0%を占めている。

また、死者・行方不明者では、40歳以上が315人と89. 0%、このうち60歳以上が229人と64. 7%を占めている。

### (3) 単独登山者の遭難状況

単独登山（「山菜・茸採り」、「観光」等も含む。）における死者・行方不明

者は210人で、単独遭難者の19.6%を占めており、複数登山（2人以上）における遭難者のうち死者・行方不明者が占める割合（7.1%）と比較すると12.5ポイントの増加となっている。

#### (4) 通信手段の使用状況

発生件数2,583件の77.5%が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請の増加が予想され、GPS機能付きの携帯電話であれば、自分の現在地をより速やかに救援機関に伝えることができるなど、救助要請手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

### 3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

#### ○ 登山計画の事前の作成と万全な装備品の準備

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、装備、食料等に配慮し、余裕のある安全な登山計画を立てる。

計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、雨具（レインウェア）、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した際に助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）を準備する等、装備を万全に整える。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

#### ○ 登山計画書の提出

作成した登山計画書は、一緒に登山する仲間と共有すると共に、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

#### ○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

#### ○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

#### ○ 的確な状況判断

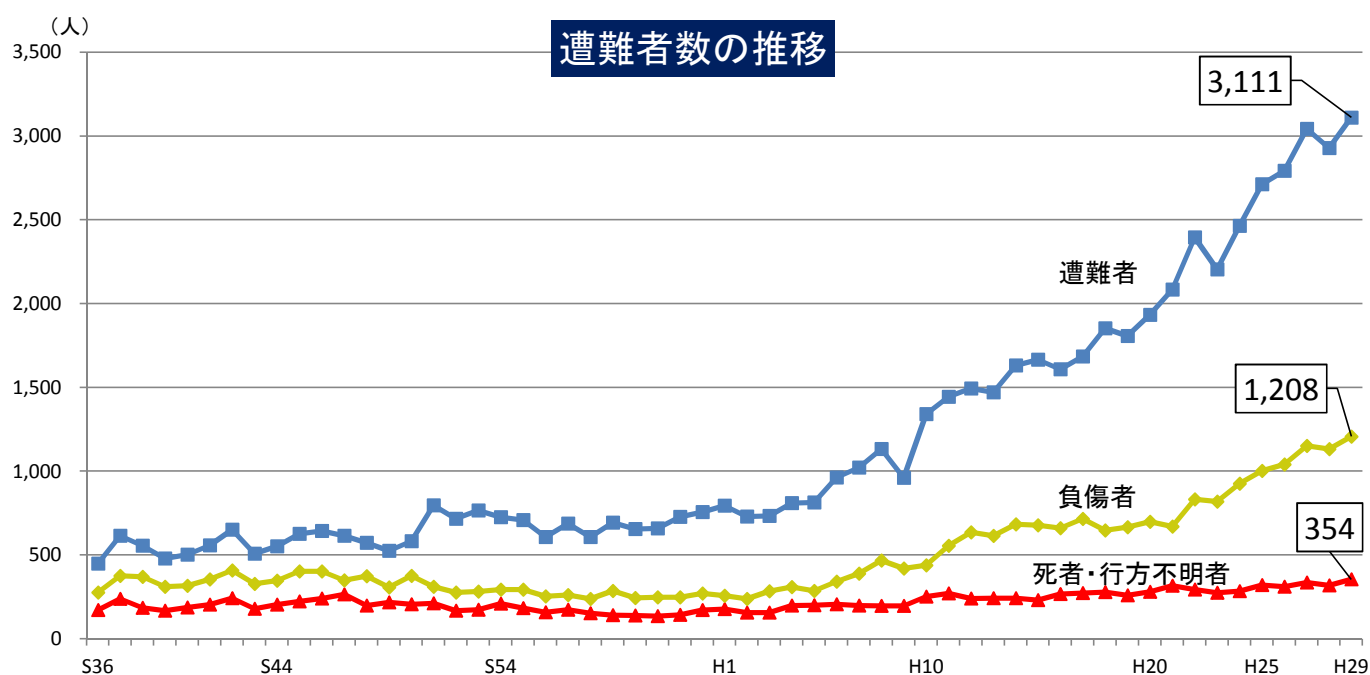
視界不良・体調不良時等には、道迷い、滑落等のおそれがあることから、「道に迷った。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今来た道を辿り、正規の登山

道まで引き返すなど、状況を的確に判断すると共に、早めに登山を中止するよう努める。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入（表1～8においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

# 表1 概要

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
											構成比
発生件数(件)	1,631	1,676	1,942	1,830	1,988	2,172	2,293	2,508	2,495	2,583	
遭難者数(人)	1,933	2,085	2,396	2,204	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%
死者・行方不明者	281	317	294	275	284	320	311	335	319	354	11.4%
死者	253	269	262	244	249	278	272	298	278	315	10.1%
行方不明者	28	48	32	31	35	42	39	37	41	39	1.3%
負傷者	698	670	832	819	927	1,003	1,041	1,151	1,133	1,208	38.8%
無事救出者	954	1,098	1,270	1,110	1,254	1,390	1,442	1,557	1,477	1,549	49.8%



注:「遭難者数」には、昭和51年から無事救出者を含む。

## 表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(平成29年)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	236	276	25	3	76	172
青森県	34	39	3		5	31
岩手県	47	49	10	1	19	19
宮城県	19	23	2		4	17
秋田県	46	51	7		13	31
山形県	49	51	6	3	26	16
福島県	55	62	7	2	25	28
東京都	155	187	12		70	105
茨城県	25	28	3		14	11
栃木県	30	77	12	5	56	4
群馬県	104	118	9	2	63	44
埼玉県	63	70	10	1	32	27
千葉県	14	21	4		3	14
神奈川県	123	149	6	3	60	80
新潟県	108	154	16	6	63	69
山梨県	161	180	30	1	81	68
長野県	292	327	60	3	148	116
静岡県	128	137	7	2	55	73
富山県	131	144	16	2	70	56
石川県	27	28	3	1	14	10
福井県	26	30	1		18	11
岐阜県	78	87	7		43	37
愛知県	23	28	1		12	15
三重県	57	76	3		19	54
滋賀県	76	108	4	1	36	67
京都府	46	56	4	1	16	35
大阪府	10	16			1	15
兵庫県	100	125	13	1	41	70
奈良県	47	55	8	1	22	24
和歌山県	7	8	2		3	3
鳥取県	25	26	3		12	11
島根県	3	4			1	3
岡山県	12	13	3		4	6
広島県	17	22	2		5	15
山口県	8	11	1		1	9
徳島県	12	33	1		4	28
香川県	3	4			1	3
愛媛県	33	41	3		13	25
高知県	4	5	2			3
福岡県	39	47	2		17	28
佐賀県	5	5			2	3
長崎県	8	10			6	4
熊本県	11	19	2		3	14
大分県	34	50	2		15	33
宮崎県	20	25	1		4	20
鹿児島県	29	31	2		12	17
沖縄県	3	5				5
合計	2,583	3,111	315	39	1,208	1,549

表3 目的別山岳遭難者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	1,947	2,151	2,283	2,101	2,223	71.5%
登山	1,645	1,828	2,048	1,867	1,957	62.9%
ハイキング	150	188	106	110	136	4.4%
スキー登山	61	58	57	32	65	2.1%
沢登り	48	43	39	48	36	1.2%
岩登り	43	34	33	44	29	0.9%
山菜・茸採り	360	328	391	386	380	12.2%
その他	406	315	369	442	508	16.3%
観光	130	99	105	143	116	3.7%
作業	59	43	40	40	45	1.4%
溪流釣り	32	31	26	32	43	1.4%
写真撮影	20	20	21	21	21	0.7%
自然観賞	3	14	11	14	18	0.6%
山岳信仰	10	10	8	9	15	0.5%
狩猟	6	3	4	8	9	0.3%
スキー	146	87	57	72	77	2.5%
その他			85	92	147	4.7%
不明		8	12	11	17	0.5%
合計	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%

注：平成27年から、「その他」から「スキー」を分離計上。

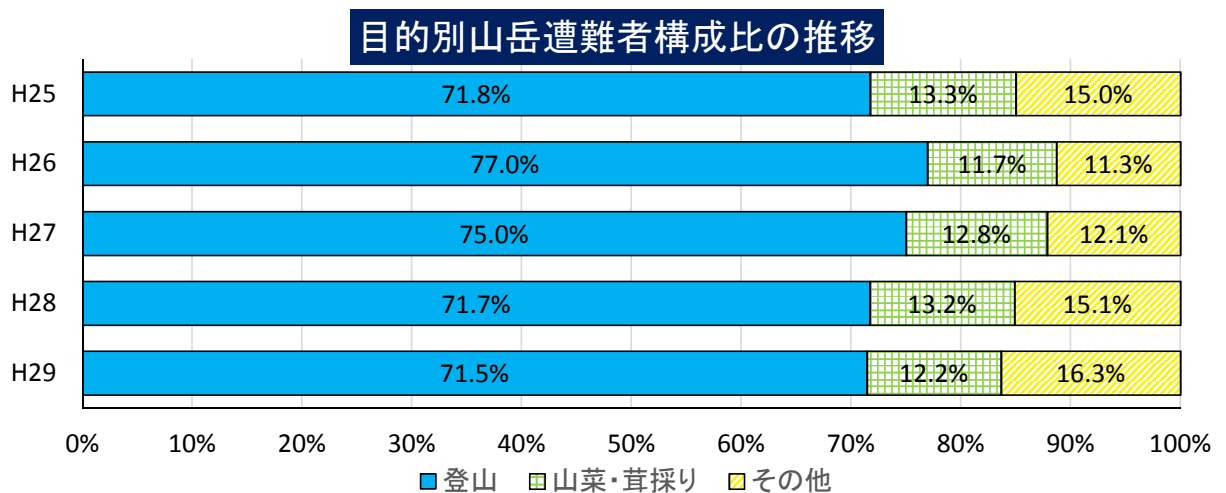
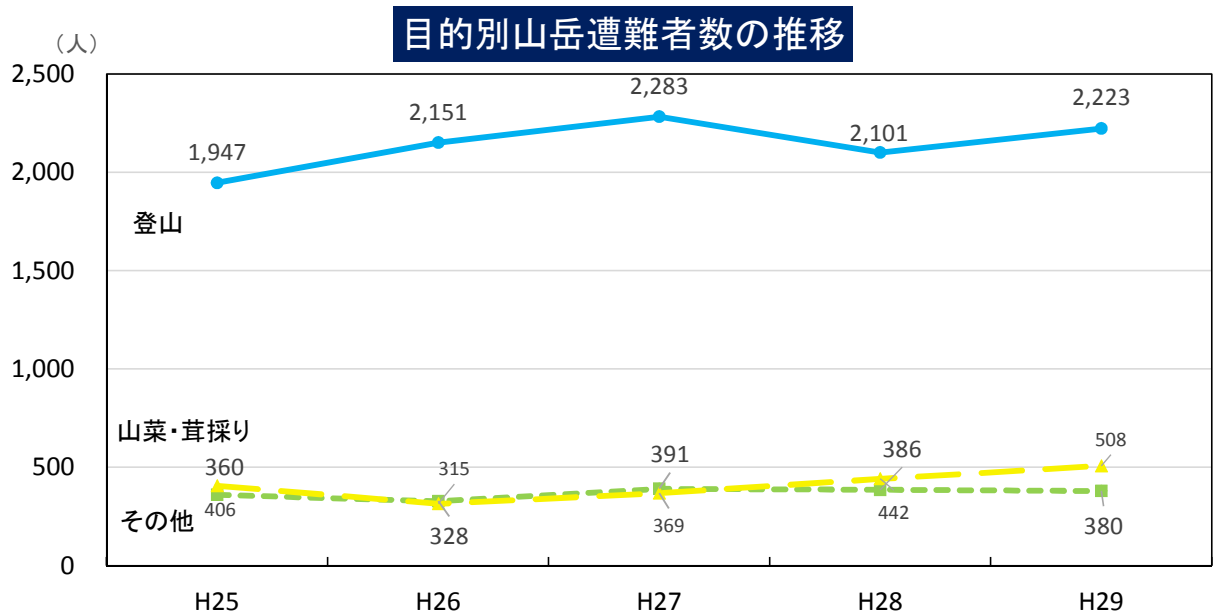
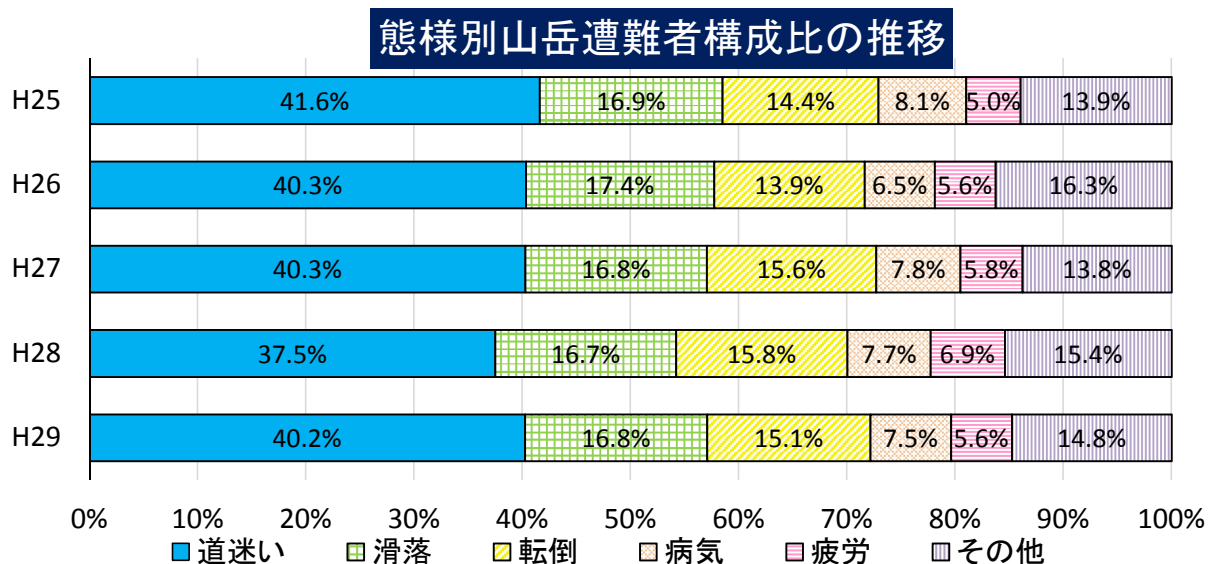
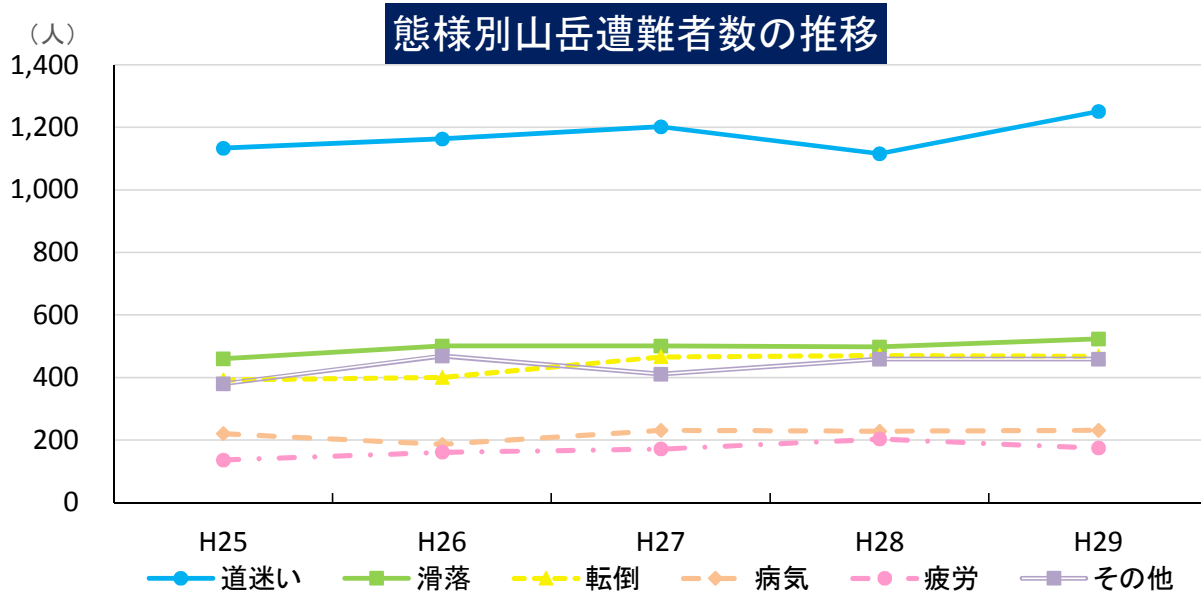


表4 態様別山岳遭難者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	1,134	1,163	1,202	1,116	1,252	40.2%
滑 落	460	501	501	498	524	16.8%
転 倒	393	401	467	471	469	15.1%
病 気	221	187	232	229	232	7.5%
疲 労	137	162	172	204	175	5.6%
そ の 他	368	380	469	411	459	14.8%
転 落	73	90	107	108	100	3.2%
悪 天 候	64	42	70	18	18	0.6%
野生動物襲撃	42	48	43	42	63	2.0%
落 石	17	16	25	16	13	0.4%
雪 崩	20	9	17	8	65	2.1%
落 雷	3		1			0.0%
鉄 砲 水	7	2		2		0.0%
有 毒 ガ ス	1					0.0%
そ の 他	83	108	128	146	116	3.7%
不 明	58	65	78	71	84	2.7%
合 計	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%

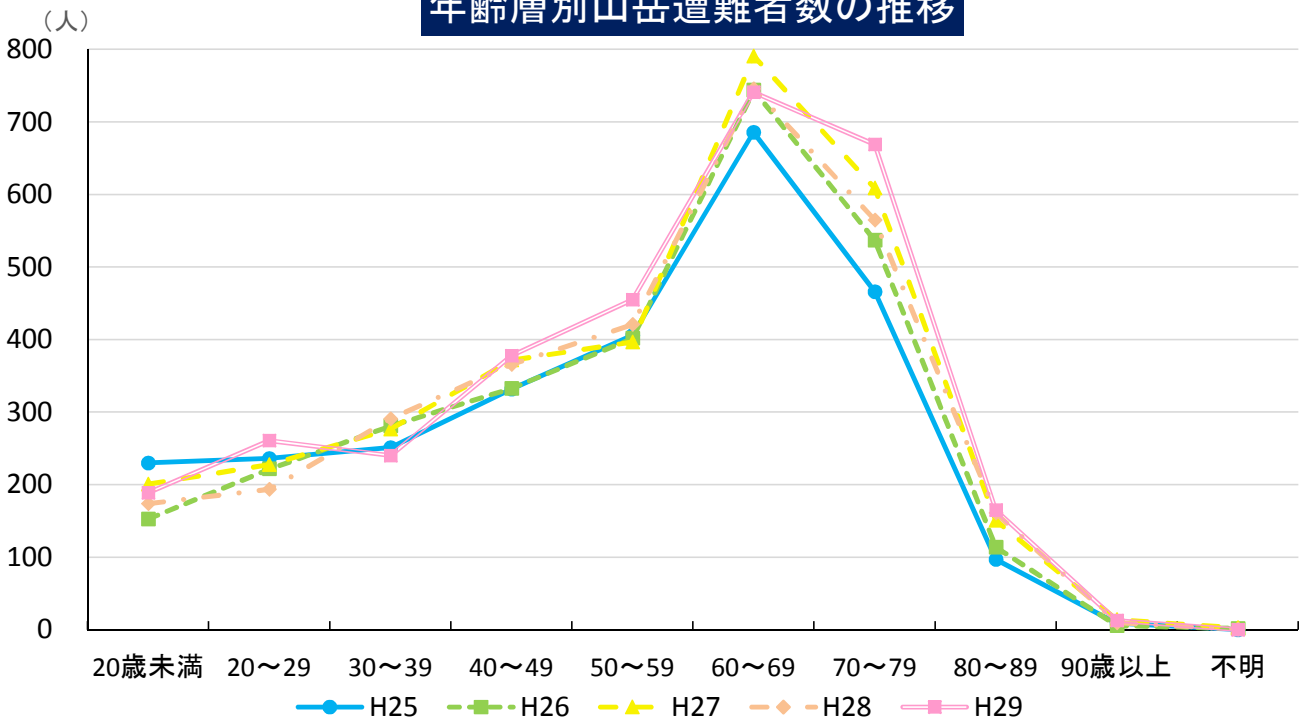




# 表5 年齢層別山岳遭難者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	230	153	201	174	189	6.1%
20～29	236	222	228	194	261	8.4%
30～39	251	281	277	291	240	7.7%
40～49	332	333	372	366	378	12.2%
50～59	406	402	397	421	455	14.6%
60～69	686	744	791	746	741	23.8%
70～79	466	537	609	565	669	21.5%
80～89	97	114	151	161	165	5.3%
90歳以上	9	6	14	10	13	0.4%
不明		2	3	1		0.0%
合計	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%

## 年齢層別山岳遭難者数の推移



## 年齢層別山岳遭難者構成比の推移

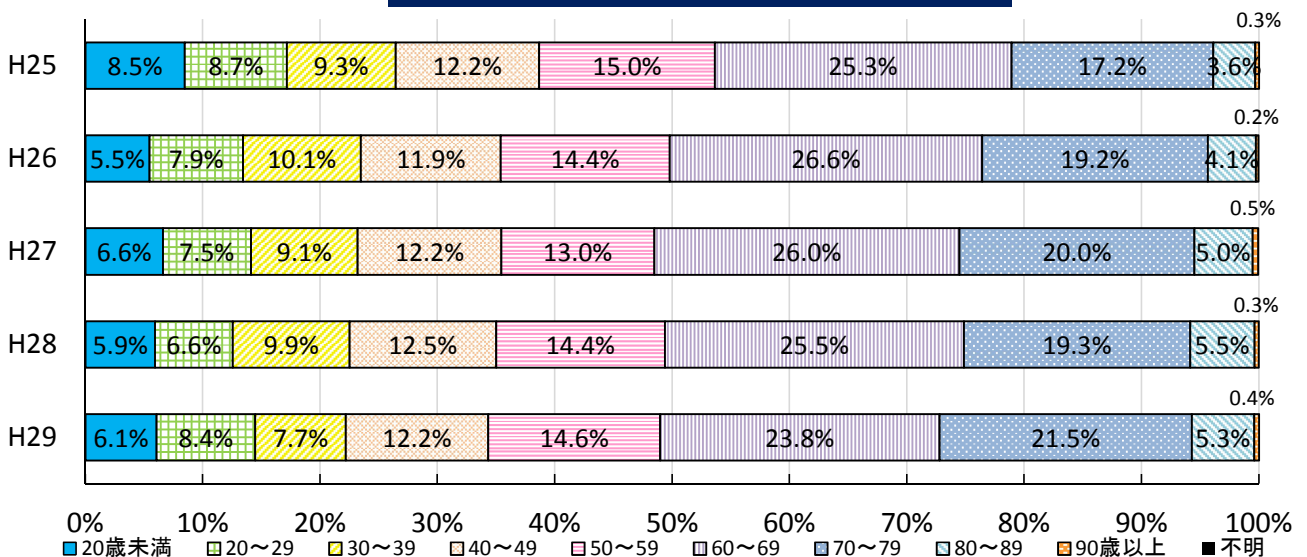


表6 年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満		3	3	4	10	2.8%
20～29	5	7	10	12	10	2.8%
30～39	22	13	15	13	19	5.4%
40～49	32	36	30	28	23	6.5%
50～59	57	36	43	46	63	17.8%
60～69	98	97	107	101	111	31.4%
70～79	81	85	86	76	81	22.9%
80～89	23	29	35	36	33	9.3%
90歳以上	2	3	6	2	4	1.1%
不明		2		1		0.0%
合計	320	311	335	319	354	100.0%

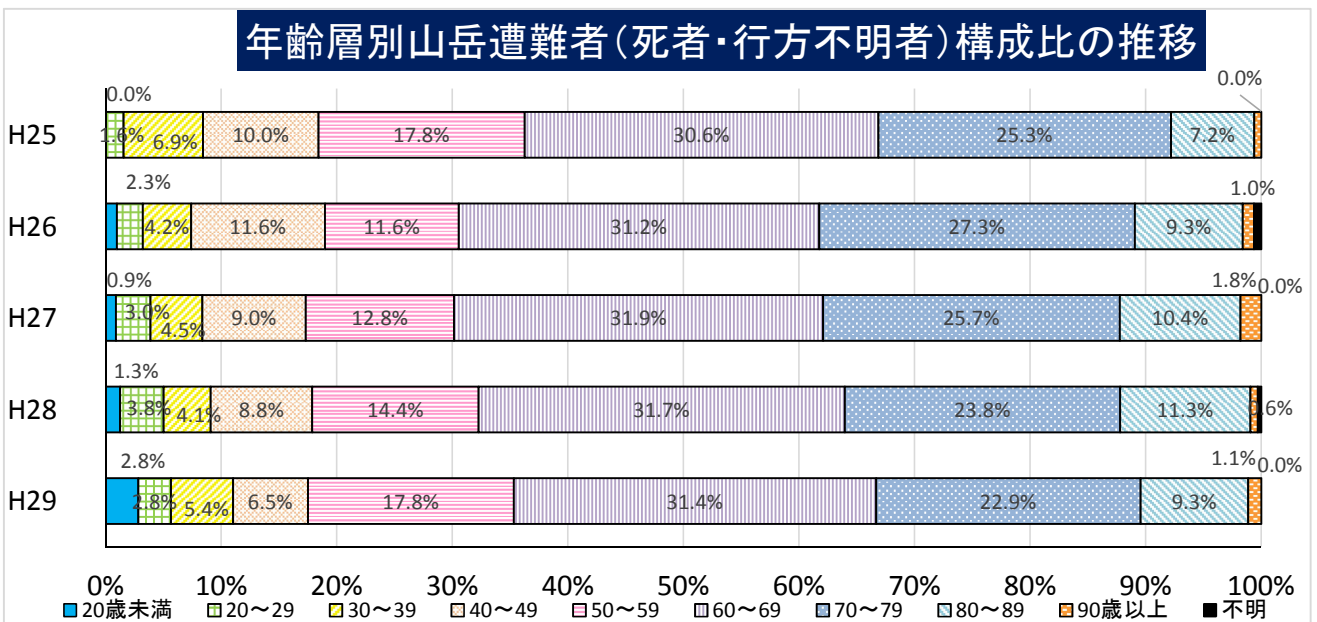
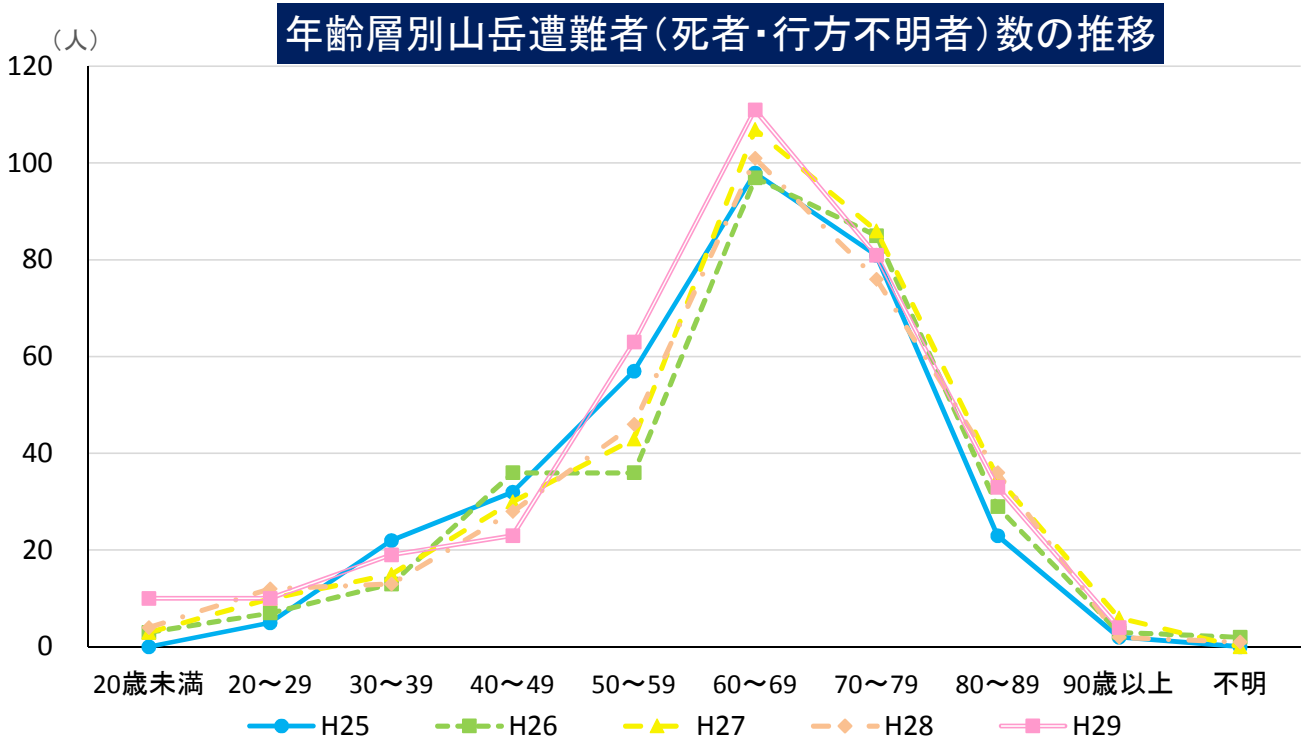
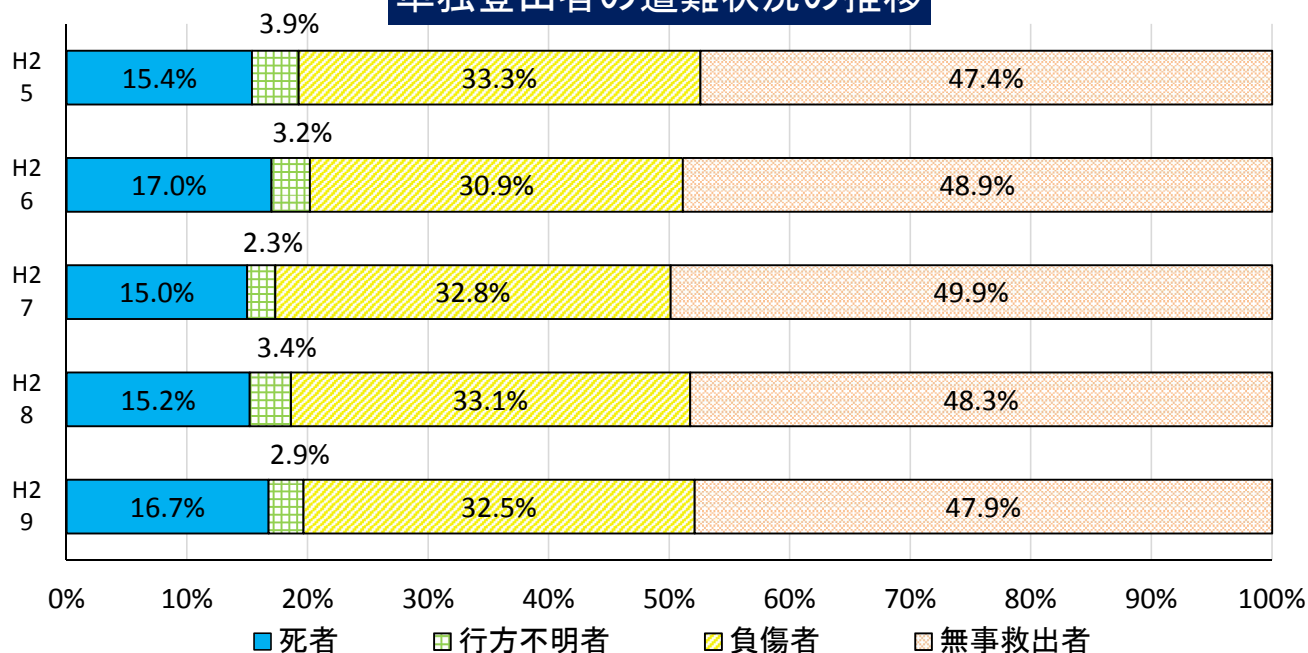


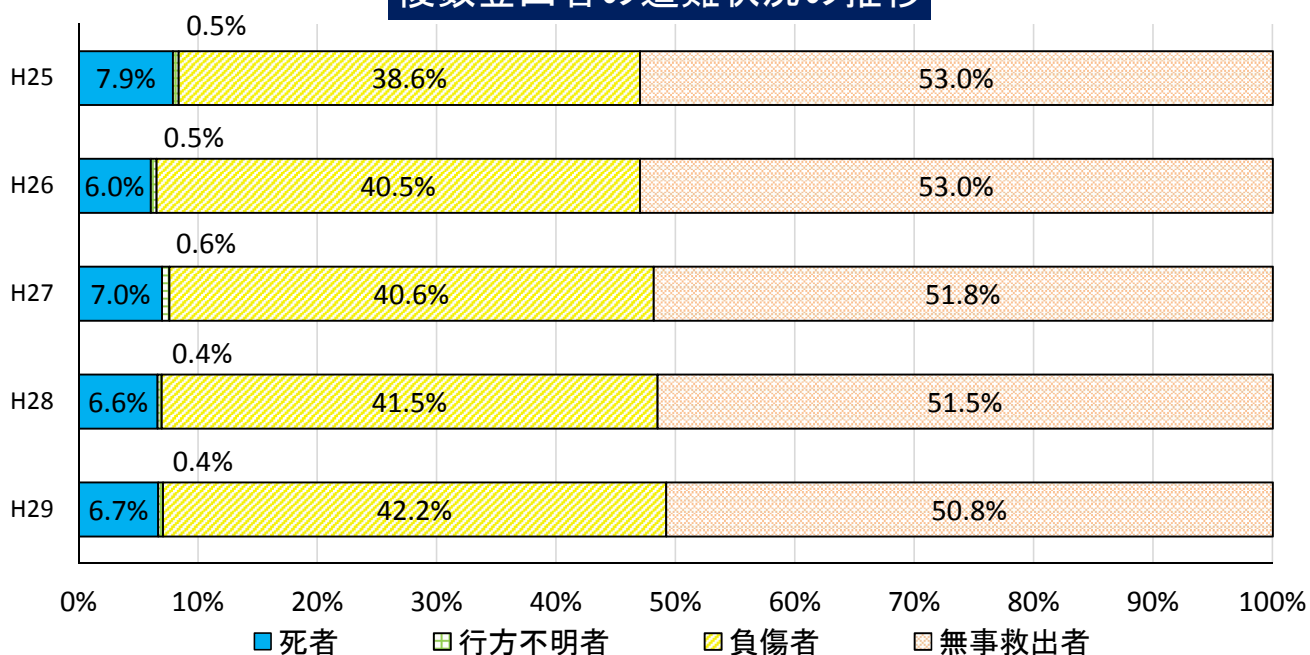
表7 単独登山者の遭難状況

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭難者	852	941	1,068	988	1,069	100.0%
死者・行方不明者	164	190	185	184	210	19.6%
死者	131	160	160	150	179	16.7%
行方不明者	33	30	25	34	31	2.9%
負傷者	284	291	350	327	347	32.5%
無事救出者	404	460	533	477	512	47.9%
全遭難者に占める単独登山中の遭難者の割合	31.4%	33.7%	35.1%	33.7%	34.4%	

単独登山者の遭難状況の推移



複数登山者の遭難状況の推移



注:この頁における「登山者」とは、目的が「山菜・茸採り」「観光」等の者も含む。

### 表8 通信手段の使用状況

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	件数	件数	件数	件数	件数	構成比
発生件数	2,172	2,293	2,508	2,495	2,583	
使用あり	1,548	1,728	1,922	1,907	2,003	77.5%
携帯電話	1,527	1,707	1,920	1,905	1,991	77.1%
無線	21	21	2	2	12	0.5%
使用なし	624	565	586	588	580	22.5%

注1: 通話エリア圏外、バッテリー切れ等は「使用なし」に含む。

注2: 携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。

